



農協だより

Vol.52

URL: <http://www.ja-aki.jp> 平成 22 年 12 月

2011年稲作ごよみを作成いたしました。

広島農政事務所が発表した「平成 22 年産水稻の予想収穫量 (10 月 15 日現在)」によると広島県南部は予想収穫量 504 kg/10 a 作況指数 96 と発表されました。6~7 月の天候不順により茎数の確保が少なくなりやや不作になりました。また、登熟期に猛暑の影響を受け未熟粒の発生がおこり品質の低下がありましたが、皆様の稲作はどうでしたか？

今回の稲作ごよみの変更点は、①フタオビコヤガ対策②一発肥料の変更③雑草対策について部分的に変更しましたので紹介いたします。

① 稲を本田に移植して 6~7 月に加害するフタオビコヤガの対策として、現在の D r. オリゼプリンス粒剤 10 をビルダーフェルテラスタークル箱粒剤に変更いたしました。フタオビコヤガによる葉の食害がひどい方は、ご使用ください。ビルダーフェルテラスタークル箱粒剤についてはカタログを同封していますので参考にしてください。イネドロオイムシとイネミズゾウムシの登録は明記されていませんが取得する予定です。効果のあるフェルテラの名前の付いている農薬で、D r. オリゼフェルテラ粒剤で登録を取得しています。

② 肥料のヒノヒカリ・あきろまんの省力型一発肥料で T S ロング 2 号を他肥料と比較栽培を行い価格の安い J B 555M に変更しました。

③ 当地区は、水持ちの十分な水田が少なく除草剤の効果が低下して雑草が残る所があります。雑草が残った時、使いやすいハイカット 1 キロ粒剤を載せることにしました。

使い慣れた稲作ごよみをなるべく変えないように「2011 年稲作ごよみ」を作成しました。A 3 版の白黒コピーを同封していますが、各支店に新聞見開き大のカラー刷りしたものを置いてますのでお持ち帰りください。また、下記の日程で稲作講習会を開催し、ごよみの変更点などを中心に講習を致しますので是非お越しください。

稲作講習会

午前の部・10 時より

午後の部・1 時 30 分より



日程	12月6日(月)		12月7日(火)		12月8日(水)		12月9日(木)		12月10日(金)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
会場	畑賀支店 2階	阿戸支店 2階	上瀬野支店 3階	中須賀支店 2階	東海田支店 2階	中野支店 2階	萩原支店 2階	瀬野支店 2階	新宮 老人集会所	初神 老人集会所

海田農業祭

11 月 14 日かいた農業祭が J A 安芸東海田支店で農産物品評会、野菜の直売、餅つき、肥料、農機具、農業資材等の即売会がにぎやかに行われました。



農産物品評会は、今年の天候が猛暑と降水量の少なかったことが影響して出品点数が昨年より少なくなりましたが、品質の良いものが多く出品された農産物品評会でした。

J A 安芸組合長賞を始めとして 18 点の入賞者が表彰されました。午後 0 時 30 分からは出品物を地域の消費者の方へ格安で販売して生産者と消費者の交流を深めました。



不用農薬の回収

11 月 18 日育苗センターで不用農薬の回収を行いました。管内全地区から 304 kg もの農薬が集められ、そのほとんどが期限切れになった農薬でした。19 日に産業廃棄物処理業者へ引き渡しました。農薬を使用する場合は登録内容と使用期限を守りましょう。次回は 2 年後の回収予定です。



水田の土壌検査

農協だより 10 月号でご案内した水田の土壌検査は、11 月 10 日の締切日で 31 点の申込みがありました。早速、全国農業協同組合連合会 J A 西日本肥料研究所へ依頼をいたしました。この時期申込みが多いので 1 カ月はかかると思いますが結果が出次第、個別に結果及び「土壌診断処方せん」を送付いたしますので参考にしてください。また、全体の様子を農協だよりに載せたいと思います。

しいたけ栽培講習会

しいたけ、ひらたけ、なめこ等の植菌時期になりました。このたび、J A 安芸で販売している種菌の普及指導をしている財団法人日本きのこセンターより講師を招き「きのこ栽培」について話しをしていただくことになりました。

しいたけは直径 10 cm の長さ 1m の原木で 2 kg の生しいたけが生える養分があるといわれています。しかし、平均すると 600 g / 本しか発生していない状況です。植菌した後の管理により大きな差が出ますので勉強していただきたいと思ひます。多数ご参加ください。お待ちしております。

開催日時 平成 22 年 12 月 9 日 (木)

午後 1 時 30 分より

会場 J A 安芸 萩原支店 2 階

内容 「きのこ栽培について」

特にしいたけを中心に講習。日頃の質問をお受けいたします。



12月営農メモ

果樹

果樹の剪定について

剪定の目的

- ① 隔年結果になりやすいので、安定して結果させる為
- ② 作業をやりやすくして、品質を高め、病害虫の発生を少なくする
- ③ 樹の樹命をのばす。



切り返しと間引き

図2のように、枝を短く切り詰めることを切り返しと言ひ、枝の本数を減らすことを間引きと言ひます。間引きは、すべての果樹に応用できる無難な方法ですが、間引きだけでは、強いしっかりした枝が出なくなってしまうので、適宜切り返しを併用する必要があります。伸ばしたい枝の先端は切り返しを行い、競争する枝を間引きます。

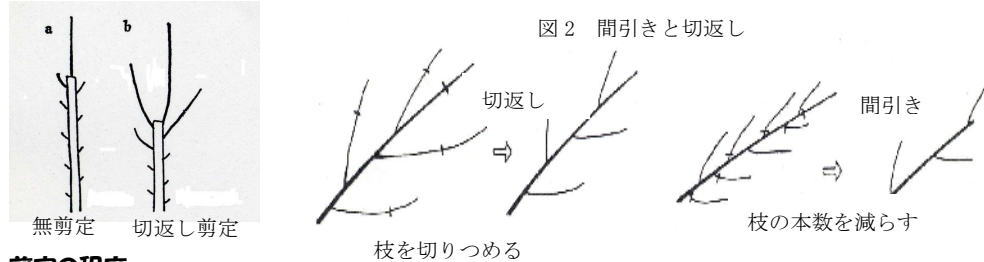


図2 間引きと切り返し

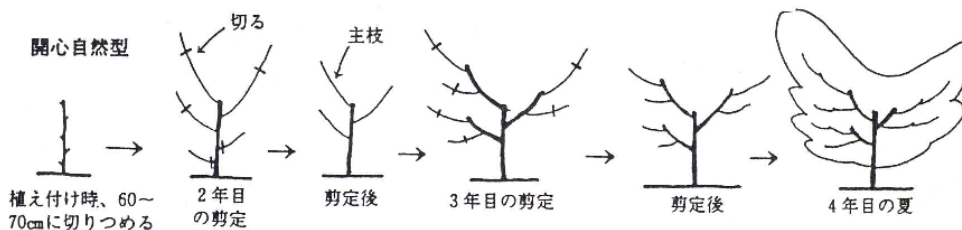
剪定の程度

若木では弱く、老木では強く切るのが原則です。強く枝を切るというのは、剪定する枝の量を多くするという意味です。老木では少し強めに枝を切らないとよい結果枝や結果母枝が発生しません。

目標とする樹形

図3のように、心を開いた樹形で、ほとんどの果樹に応用できます。主枝は、3本決め120°に開き3方向に伸ばします。

図3 開心自然形



野菜

これからは、霜（防寒）対策が必要になります。皆さんが沢山栽培されるハクサイでは、結球した物は、霜によって外葉が傷むので外葉で結球葉を包むようにひもでくくってやると傷みが少なくなります。ベタガケ資材を掛けるのも効果があります。シュンギクは、これからの鍋料理に欠かせないので長く収穫したいと思います。シュンギクは霜で葉が傷むのでトンネルをしてビニールを掛けますが、12月は天気がいいと30度以上になるので換気をしてやります。ほとんどの野菜が30度を超えると良くないのでハウス栽培でも換気をして温度管理をしてやります。また、被服資材（ビニール等）を掛けると乾くので灌水をしてやるようにします。

ハウレン草を種まきする場合は、直接蒔くと発芽するまでに日数がかかるので24時間浸種して引き上げ、濡れタオルに包み15~20度の所に置き3割ぐらい発芽させて畑に蒔きます。これから種まきするものはハウス又は小トンネル等の保温施設が必要です。

12月の は種と収穫期

今月のは種はハウス栽培になります。



品目	は種期	収穫期
こまつな	12月上中下	2月~3月
ハウレンソウ	12月上中下	2月~3月
ミズナ	12月上中下	2月~3月
小カブ	12月上中下	2月~3月
大根	12月	4月
葉ニンジン	12月	2月~3月
廿日大根	12月	1月

は種期と収穫期の予定は作り方、環境で変わります。

水稲

当管内の水田は、ケイ酸、鉄の不足している水田が多いので、冬に土づくり肥料として「ケイテツエース、ミネラルA、ケイカル等、堆肥」を入れて耕します。早い時期に入れると土づくり肥料のアルカリ分で水田土壌の酸度が上がって、微生物の活動が活発になり有機物を分解して地力が増す効果があります。

また、水田を耕した後に水が溜まるとう機物の分解が遅れるので、5~6mおきに排水溝を切り水田から水が早く抜けるようにしておきます。